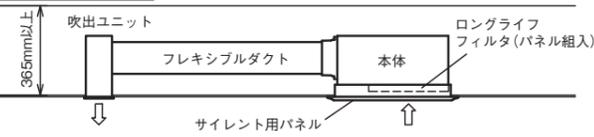


天埋カセテリア形 据付工事説明書

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
 「安全上のご注意」および「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」をご覧になった後、室内ユニットの据付けを行ってください。
 ●電気配線(室内ユニット)は、電気配線工事説明書をご覧ください。
 ●リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
 ●ワイヤレスキットの取付方法はワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
 ●安全遮断弁の取付方法は、安全遮断弁付属の説明書をご覧ください。
 ●冷媒検知警報器の取付方法は、冷媒検知警報器付属の説明書をご覧ください。
 ●室外ユニットの据付方法、電気配線(室外)及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットとの付属の説明書をご覧ください。
 また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
 この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また海外においてはアフターサービスもできません。
 This product is designed for use only in Japan and cannot be used in any other countries. No servicing is available outside of Japan.

設置方法

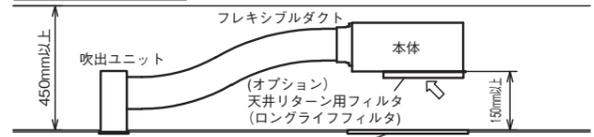
サイレント仕様



吹出ユニット
フレキシブルダクト
本体
ロングライフフィルタ(パネル組入)
サイレント用パネル

365mm以上

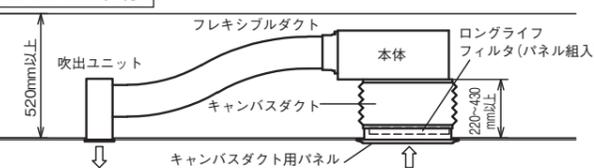
天井リターン方式



吹出ユニット
フレキシブルダクト
本体
ロングライフフィルタ(パネル組入)
天井リターン用フィルタ(ロングライフフィルタ)
点検口(現地手配)

450mm以上

キャンパス仕様



吹出ユニット
フレキシブルダクト
本体
ロングライフフィルタ(パネル組入)
キャンパスダクト
キャンパスダクト用パネル

520mm以上

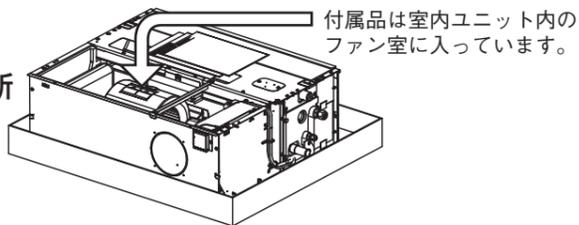
本体の大きさ・設置方法とオプションを確認してください。
吹出ダクト他のオプションを含めカタログにて確認してください。

シリーズ展開 組合せオプション		小型										中型			大型			
シリーズ展開	店舗	P22	P28	P36	P40	P45	P50	P56	P63	P71	P80	P90	P112	P140	P160			
ビル空調	GHP	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
吹出口数	丸ダクト	1口	2口		3口			4口										
キャンパスダクト	パネル	R-PNC-2AW		R-PNC-3AW			R-PNC-4AW											
	キャンパス	HAO1503		HAO1490			HAO1484											
サイレント	パネル	R-PNS-2AW		R-PNS-3AW			R-PNS-4AW											
天井リターン	フィルタ	R-FL-2A		R-FL-3A			R-FL-4A											
	点検口	現地手配																

①据付の前に

- 据付はこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
 - 機種・電源仕様
 - 配管・配線・小物部品
 - 付属品

付属品収納場所
(梱包時)



付属品

本体吊り込み用	冷媒配管用					ドレン配管用				コントロール用
平座金(M10)	ねじ接続継手(大)※	ねじ接続継手(小)※	パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	バンド	パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	ドレンホース	ホースクランプ	解除ピン※
8個	1個	1個	1個	1個	4個	1個	1個	1個	1個	1本
室内ユニット吊り下げ用	ガス管接続用	液管接続用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用	インターロック解除用

※ R32 ビル用マルチ機のみ付属しています。

②室内ユニットの据付場所の選定

- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- 冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
 - 人感センサを取付ける場合、据付高さは4m以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。

②室内ユニットの据付場所の選定のつづき

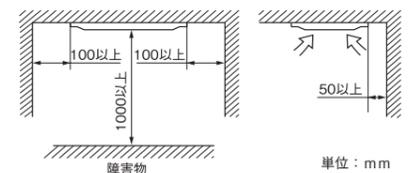
- 据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
 - ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - 侵入外気の影響のない所。直射日光の当たらない所。
 - 周囲の露点温度が28℃以下、かつ、相対湿度80%以下の所。
- 〔室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態では運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10~20mmの断熱材を取付けてください。〕
- テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
 - 室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
 - 調理器具が発する熱の影響を受けない所。フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
 - 蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
- ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
- ②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
 - ③ワイヤレス機種を2台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を6m以上離してください。
 - ④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を4m以上離して設置してください。

室内ユニット据付スペース

- 据付高さは2.5m以上としてください。

この室内ユニットは「一般大衆が近づかない機器」に分類されます。

- 2.5mとなる場合は別途販売店へご相談ください。
- 固定BK(PJG116A036)を用いてフィルタ固定する場合は、フィルタ固定クリップ横のねじ穴にボルト(H071D04X008K)にて固定してください。

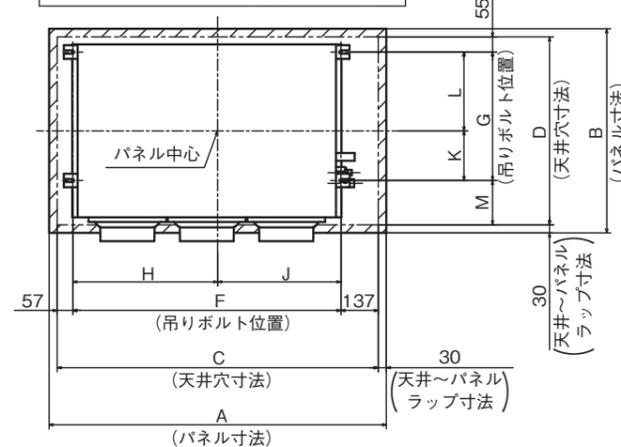


③据付け前の準備

本内容を参照に最新設置基準に合わせ設置してください。

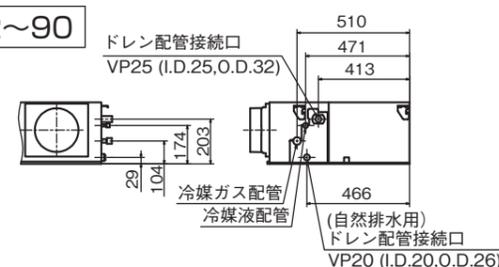
- 吊りボルトの長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- システム天井(グリッド天井・ライン天井)の場合
吊り長さ(吊りボルト長さ)500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
- 強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
吊り長さ(吊りボルト長さ)1000mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金(M10)を4組現地に手配してください。

サイレントパネルと組み合わせの場合

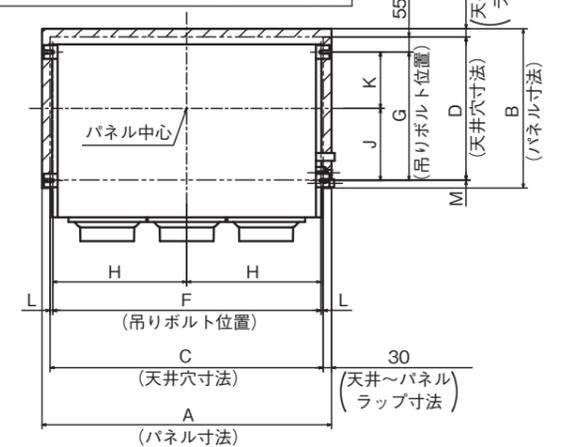


機種容量	A	B	C	D	F	G	H	J	K	L	M
P22~56	1040	750	980	690	786	472	433	353	182.5	289.5	162.5
P63~90	1240	750	1180	690	986	472	533	453	182.5	289.5	162.5
P112~160	1658	850	1598	790	1404	530	742	662	190.5	339.5	204.5

P22~90

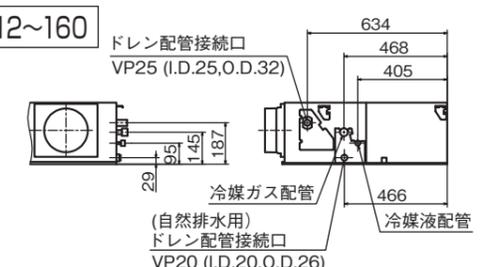


キャンパスパネルと組み合わせの場合



機種容量	A	B	C	D	F	G	H	J	K	L	M
P22~56	864	585	804	525	786	472	393	265	207	9	2.5
P63~90	1064	585	1004	525	986	472	493	265	207	9	2.5
P112~160	1484	585	1424	525	1404	530	702	323	207	10	60.5

P112~160



④室内ユニットの据付け

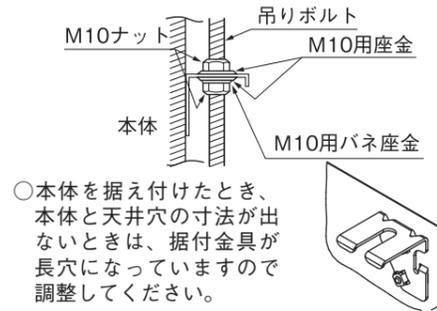
作業手順

- 据付場所に天井開口寸法をあけてください。
- 所定の位置に吊りボルトを設置してください。
- 吊りボルトは4本使用してください。
- ご使用のパネルに合うように、室内ユニット吊り込み高さを調節してください。
- 室内ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。(室内ユニット両端での高さ許容差は3mm以内)
- 高さ調整・水平度調整後、上側ナット4箇所を締め付けて室内ユニットを固定してください。

据付

〈吊り込み〉

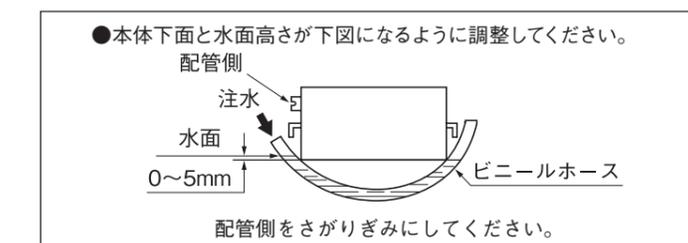
○室内ユニットを吊り込んでください。



水平度の調整

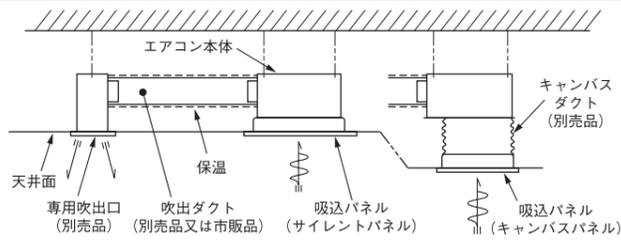
お願い

○水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。



○水平度がでない場合、フロートスイッチの誤作動あるいは不動作の原因となります。

⑤ダクト工事



お願い

○風量、機外静圧の計算を実施しダクトの長さ、形状、吹出口を選定してください。算出方法は、技術資料を参考にしてください。

①吹出ダクト

- φ200円ダクトを接続してください。
- 各スポット間のダクト長さは、2対1以内としてください。
- ダクトは、最短長さとなるよう施工してください。
- 4スポットを3スポット、3スポットを2スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板を別売品として用意しています。中央いづれを塞いでください。
- 2スポットから1スポットへの改修は、行わないでください。

お願い

●曲りは極力小さくしてください。(曲げRは極力大きくしてください。)

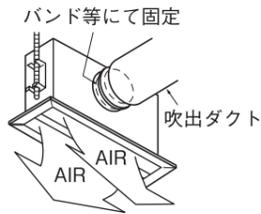


●本体・吹出口のダクトフランジとの接続は、バンドを締め固定してください。さらに固定部分に断熱材を貼り結露防止を行ってください。

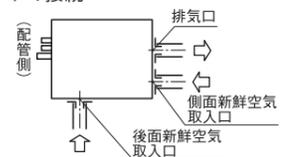
- 露付防止・吸音のため、吸音断熱付フレキシブルダクト使用を推奨いたします。(別売品1m、2m、4mがあります。)
- 天井貼付前にダクト工事を実施してください。

②専用吹出口

- 専用吹出口は、室内全般に空気が流れるような所に据付けてください。
- ダクト接続は、φ200円形ダクト専用です。
- 専用吹出口の取付及びダクトとの接続は天井貼付前に行ってください。
- ダクト固定バンド部を断熱し、結露防止を行ってください。



③給・排気ダクトの接続



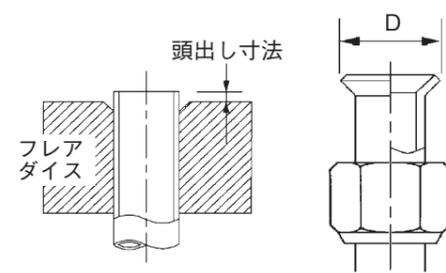
④新鮮空気取入

- 後面又は、側面のどちらか工事の容易な方の取入口を使用してください。
- 同時給排気を行う場合は、後面新鮮空気取入口を使用してください。(側面は使用不可)
- 排気(必ず給気を併用してください。)
- 側面排気口を使用してください。
- ダクト接続
 - 別売品の給排気用ダクトフランジ(φ125丸形ダクト接続用)を利用し、φ125丸形ダクトを接続してください(バンド締め)。
 - ダクトは結露防止のため、保温してください。

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

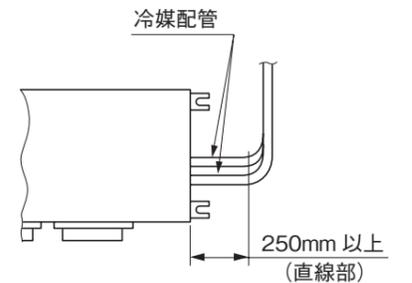
- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
- 冷媒配管の接続方式は、「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」に従い選定してください。ねじ接合継手により接続する場合は、ねじ接合継手に付属の説明書に従い作業してください。
- フレア接続する場合、フレアナットは製品付属ものをご使用ください。他のフレアナット(1種)を使用すると冷媒漏れの原因となります。
- 既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書又はカタログ・技術資料で確認してください。
 - 1) 再利用する場合、フレアナットやねじ接合継手は流用せず必ず未使用品を使用してください。
 - 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管を室内機に接続してください。



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N・m
		リジッド(クラッチ式)			
6.35	0.8	0~0.5	0.7~1.3	8.9~9.1	14~18
9.52	0.8			12.8~13.2	34~42
12.7	0.8			16.2~16.6	49~61
15.88	1			19.3~19.7	68~82
19.05	1.2			23.6~24.0	100~120

フレア接続準備

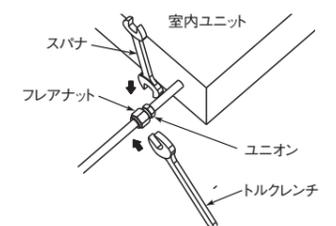
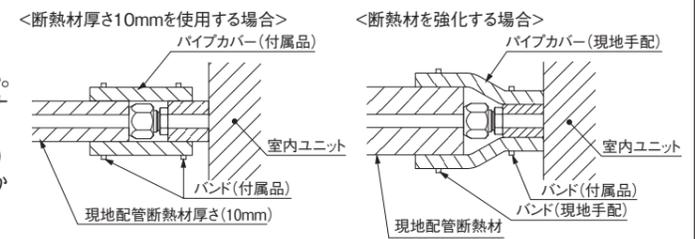
- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管(C1220T、JIS H3300)をご使用ください。また管内の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等(コンタミ)の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- 指定冷媒以外は使用しないでください。指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付けする直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR32用またはR410A用の工具を使用してください。



お願い
冷媒配管工事は、上図のように直線部を250mm以上とって行ってください。(ドレンポンプのサービスに必要です。)

フレア接続手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外してください。※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)
- 液管・ガス管をフレア加工し、右図の示すように冷媒配管を接続してください。
 - ※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。
 - ※フレア接続は、以下のように行ってください。
 - フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
- 室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締め付けてください。
 - ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
 - ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。
 - 高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
- 冷媒は室外ユニットに充填されています。室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。



注意
同一締め付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

⑦ ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。記載に従って施工しない場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
- ドレン工事は付属のドレンホースを必ず使用してください。使用しないとドレンソケットに力がかかり破損し、水が漏れることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。試運転時にドレン排水が確実にに行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

ドレンソケットとドレンホースの接続

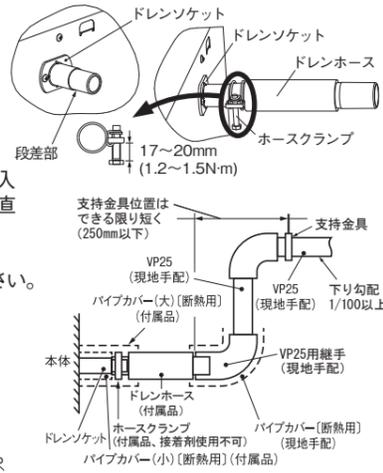
- ドレンソケットの周囲温度が50℃以上となる場合は、ドレンソケットとドレンホースを接着してください。
- 接着剤とホースクランプは併用しないでください。水漏れの原因となります。

〈ホースクランプを使用する場合〉

1. 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通し、ドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボルトが鉛直方向になるようにしてください。
2. ホースクランプはドレンホースの断熱材に接触する位置で、ねじを締め付けてください。
3. ねじを数回回転させて締め付けが固くなる位置まで締め付け、それ以上に締め付けしないでください。ねじの締め代の目安は17~20mm(参考:1.2~1.5N・m)です。

〈接着する場合〉

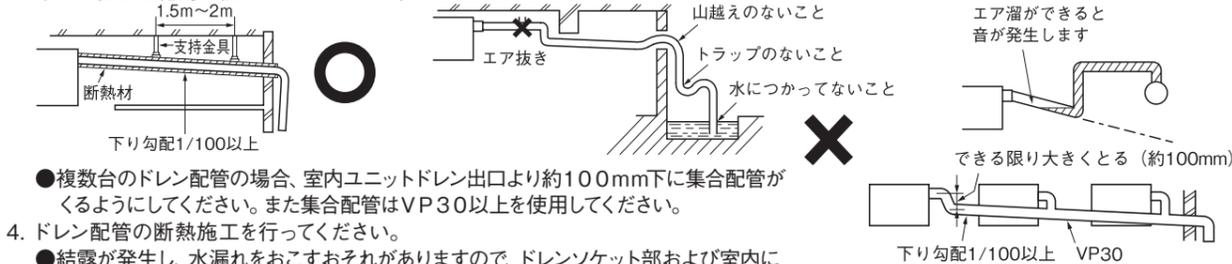
1. 塩ビ系接着剤を使用して、ドレンホースの軟質側とドレンソケットを接着してください。その際、ドレンホースをドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。
 2. 接着方法は接着剤の使用方法に従ってください。
- 接着剤推奨品：積水化学工業製エスロンNo73S、クボタケミックス製タフダイン青
 ※フタル酸エステル類が含有している接着剤は使用しないでください。水漏れの原因となります。
 ●ドレンホースやドレンソケットの内部に接着剤が流れ込まないようにしてください。



ドレンホースと配管の接続

1. VP25用継手やエルボー、配管(いずれも現地手配)を接続してください。※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。乾燥後、フレキシ部に力が加わった場合、フレキシ部が破損することがあります。●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付け時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
2. ドレン配管を接続する場合、ドレンソケットやドレン配管に力加わらないようにしてください。できるだけ室内ユニット近傍(現地手配の継手先端から250mm以内)でドレン配管を支持してください。
3. ドレン配管は下り勾配(1/100以上)としてください。不可能な場合はドレンアップしてください。途中山越えやトラップを作らないように施工してください。

- エア抜きは絶対に設けないでください。



- 複数台のドレン配管の場合、室内ユニットドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はVP30以上を使用してください。

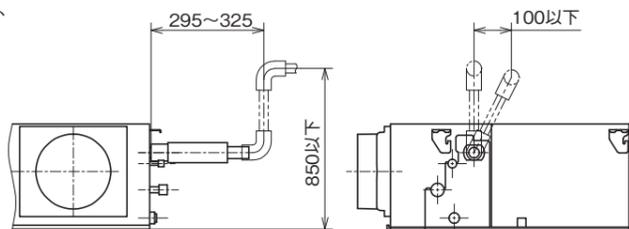
4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。

- 結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。

※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、ホースクランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、室内ユニット下面より850mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。



⑦ ドレン配管のつづき

ドレン排水テスト

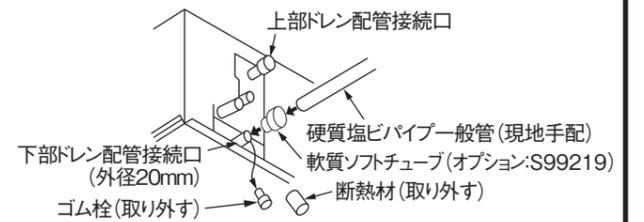
- ドレン配管工事後の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部および室内ユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
- 暖房期の据え付けの際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1. 右図要領にて給水ポンプなどを使用して、本体ドレンパンの中へ約1000ccほどの水を注入してください。注水ホースを50mm位差し込んで注水してください。(注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。)
2. ドレン排水しているか排水口部でご確認ください。※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかテストしてください。
3. 排水テスト後は、本体部まで配管の断熱をしてください。



下部ドレン配管工事要領 (配管接続)

ドレン配管に下り勾配(1/50~1/100)が可能な場合、下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



下部ドレン配管を使用する場合は必ず必要です(ドレンモータ用のコネクタの取外し)

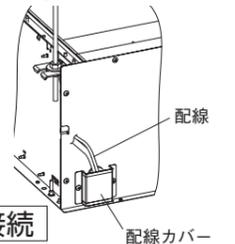
コントロールボックス内のドレンモータ用コネクタCNRを取外してください。(注:コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。)

⑧ 電気配線取出位置および電気配線接続

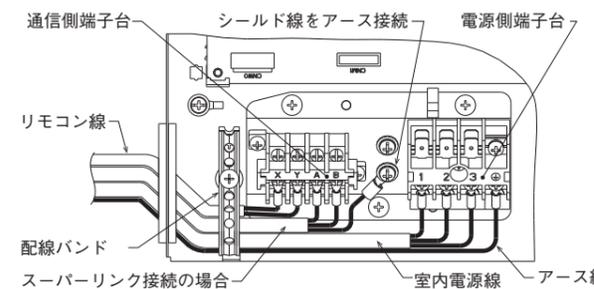
- 電気工事は電気工士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1. 電装箱の蓋(ねじ2本)を取外してください。
2. 各配線を室内ユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。コントロールボックスの蓋に貼付の結線銘板を参照ください。
3. 各配線をクランプで固定してください。
4. 取外した部品を元通りに取付けてください。

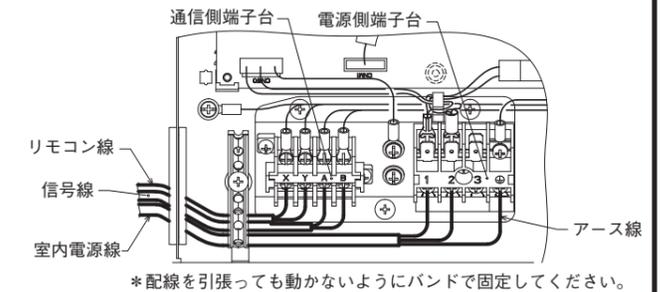
- 天井裏空気の吸込防止で配線カバーを取付けください。



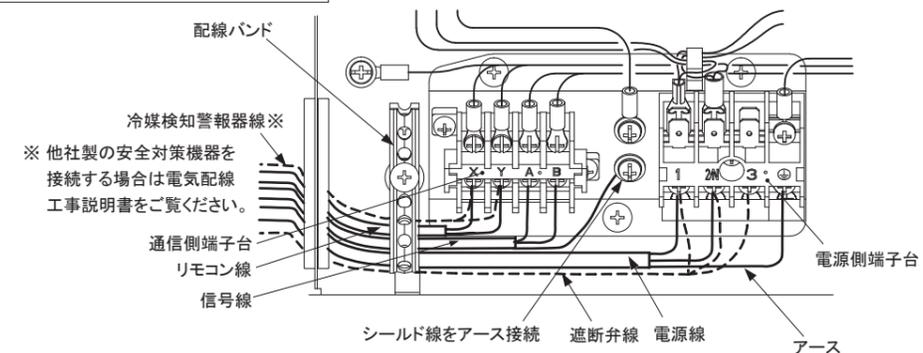
店舗機の配線接続



R410Aビル用マルチ機の配線接続



R32ビル用マルチ機の配線接続



メインヒューズ仕様

機種	仕様	部品番号
22-90	T5A L250V	SSA564A149AH
112-140	T6.3A L250V	SSA564A149AJ

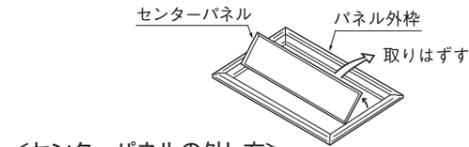
⑨ パネルの取付

サイレントパネルの場合

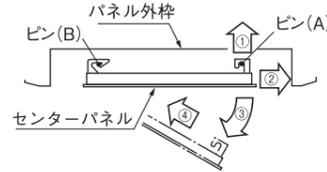
＜付属品＞

丸小ねじ (M5×35)		4個	パネル取付用
--------------	---	----	--------

① パネル内枠を外してください。

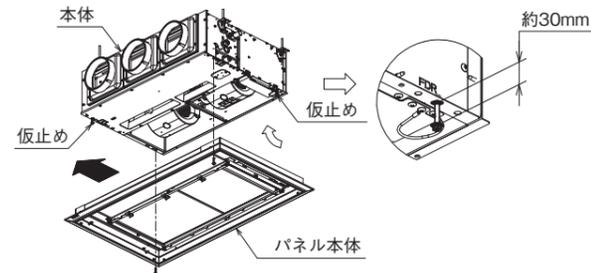


＜センターパネルの外し方＞



- ① 矢印①→②順でピン(A)より外してください。
 ② 矢印③のようにすこし開き矢印④の方向へ移動させてピン(B)より外してください。

- ② フィルタをパネルから外してください。
 ③ パネル外枠を本体に取付けてください。



- ④ パネル取付ねじ (パネル付属品) 4本のうち2本を図のように仮止めしてください。
 ⑤ パネル外枠を仮止めしたねじに引っ掛け、図の矢印の方向へスライドさせ仮止めしてください。
 (注：パネル外枠の装着には方向性があります。)
 ⑥ 仮止めしたねじ及び残りのねじ(2本)を締付けてください。
 ⑦ センターパネルを①項で外す逆の要領で取付けてください。

キャンバスパネルの場合

注) キャンバスパネルの取付けにはキャンバスダクト (別売品) が必要です。

＜付属品＞

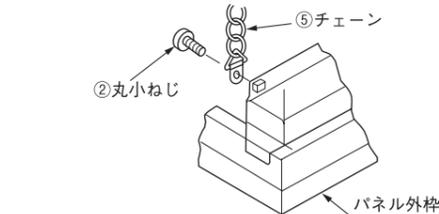
① 丸小ねじ (M4×16)		4個	パネル固定
② 丸小ねじ (M5×16)		8個	キャンバスダクト固定 チェーン固定
③ 丸小ねじ (M5×25)		4個	チェーン固定
④ ホルダー		4個	
⑤ チェーン		4個	

① キャンバスダクト (別売品) を本体に取付けてください。(4ヶ所)

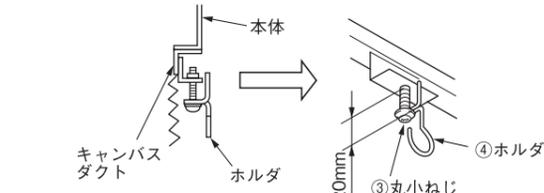


② センターパネルを上項に示す、サイレントパネルの場合と同じ要領で取外してください。

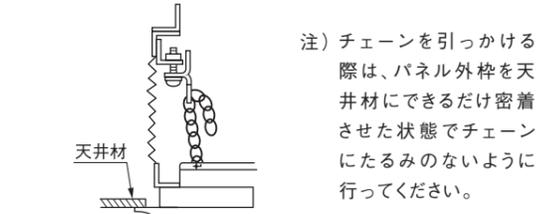
③ パネル外枠にチェーンを取付けてください。(4ヶ所)



- ④ パネル外枠を取付けてください。
 ⑤ ホルダを下図に示すように仮止めしてください。



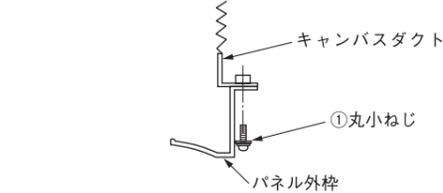
⑥ パネル外枠のチェーンをホルダに引っかけてください。



注) チェーンを引っかける際は、パネル外枠を天井材にできるだけ密着させた状態でチェーンにたるみのないように行ってください。

⑦ パネル外枠を天井材と密着するまで④項の③丸小ねじにより吊り上げてください。

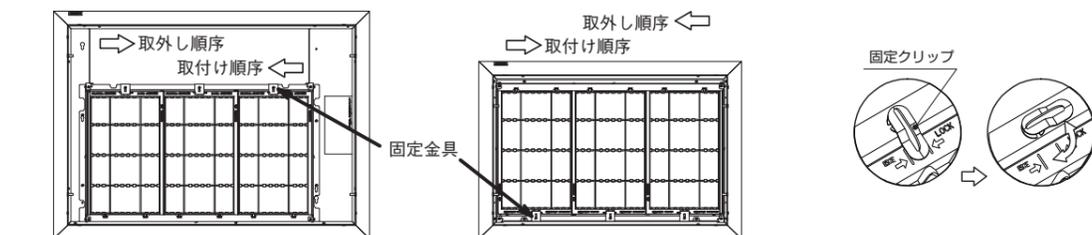
⑧ キャンバスダクトとパネル外枠をねじ止めしてください。



⑨ センターパネルを上項に示すサイレントパネルの場合と同じ要領で取付けてください。

フィルタの取付け方法

- パネルに貼付けのラベルを参照に取外し、取付の順番を確認してください。
- フィルタの取外し・取付は、固定クリップを回転させ行ってください。



⑩ インターロック機能 (R32ビル用マルチ機のみ)

- R32 マルチ機の室内ユニットは、冷媒漏えいの安全対策のためにインターロック機能が有効になっています。
- インターロック機能が有効になっている場合、空調システムは運転できません。
 ※インターロックが有効状態だとリモコンにメンテナンスコード (M28) が表示され、ユニットは運転できません。

インターロック機能の解除方法

○ すべての安全対策機器が必要な場合

下記のすべての安全対策機器を室内ユニットに接続してください。

- ・安全遮断弁
- ・冷媒検知警報器
- ・eco タッチリモコン (RC-DX3D 以降)

○ 接続する安全対策機器が一部のみ・安全対策機器が必要な場合

室内ユニットに付属のインターロック解除ピンを室内制御基板上的コネクタに接続してください。(下図参照)

※解除ピンの接続の前には、冷媒漏えいに対する安全対策が十分であること、もしくは安全対策が必要ないことを必ず確認してください。

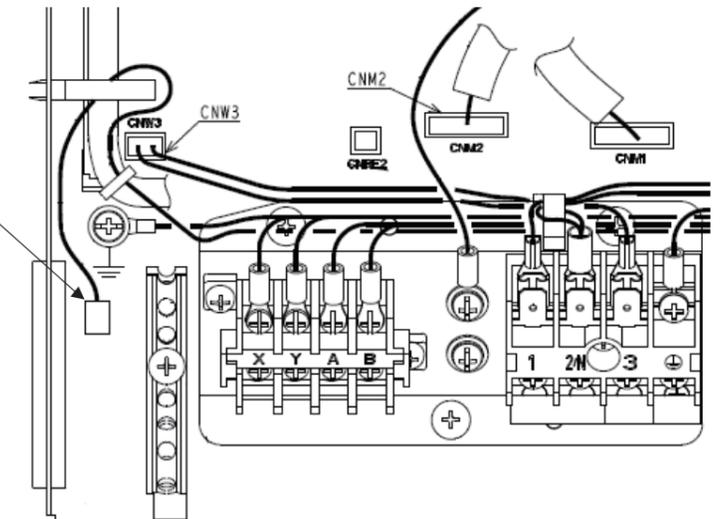
※冷媒検知警報器に子機として接続している室内ユニットのインターロック機能を解除するためには、解除ピンの接続が必要です。

※安全対策機器の要否、及びインターロック機能についての詳細は、「安全対策マニュアル」をご覧ください。

＜インターロック解除ピンの接続コネクタ＞

インターロック解除ピンは室内ユニットの制御箱付近に付属しています。使用しない場合は取り外して廃棄してください。

CNOP2 (コネクタ色：白)
 〈インターロック解除ピン接続コネクタ〉



⑪ 機外静圧設定

ECOタッチリモコン (RC-DX2 以降) を使用し、機外静圧を設定することができます。定格風量になるように各タップのファン回転数を変化させます。

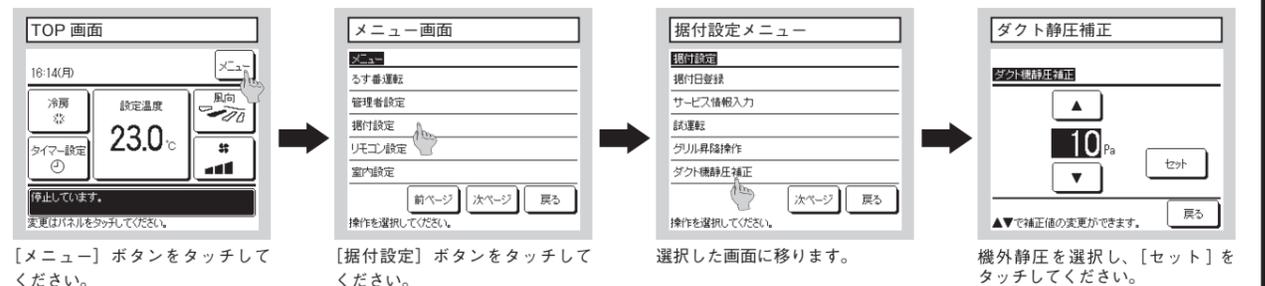
店舗シリーズをツイン機として設定する場合は、室内ユニット同士が同一風量になるように個々に設定してください。

● ECOタッチリモコンからの設定方法

- ① メニュー画面より据付設定を選択し、サービスパスワードを入力します。
- ② 据付設定メニューより、ダクト機静圧補正を選択します。
- ③ “▲”、“▼” で機外静圧を設定し、“セット” をタッチしてください。

詳細な設定方法については、ECOタッチリモコン付属の据付説明書を参照ください。

風量特性については、技術資料を参照ください。



[メニュー] ボタンをタッチしてください。

[据付設定] ボタンをタッチしてください。

選択した画面に移ります。

機外静圧を選択し、[セット] をタッチしてください。